

環境会計

荒川化学グループでは、総合的効果対比型環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理していきます。

2009年度実績集計結果

- (1) 2009年度の投資額は88百万円で、2008年度より減少しています。主な環境投資としては、ボイラー、排水処理施設、排気設備など環境関連設備の保全の強化です。
- (2) 環境保全コストの費用は964百万円で、2008年度と同レベルです。金額順では、環境配慮製品の研究開発費用、産業廃棄物の削減、減量、リサイクルや処理に関

わる費用、水質汚濁防止に関わる費用などです。

- (3) 環境保全効果では、2008年度の世界的な景気後退から、生産量が回復しつつあり、CO₂など増加しました。廃棄物のリサイクルで小名浜工場が成果をあげたことにより、埋立量が大きく減少しました。
- (4) 経済効果では、生産量の回復傾向により、廃棄物排出量やエネルギーの使用などが増加して経済効果が減少しました。

環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	2008年度		2009年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		100	590	69	573	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	(88)	(265)	(57)	(294)	P.13,14
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	(6)	(30)	(5)	(36)	P.13,14
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	(6)	(295)	(7)	(243)	P.15
上下流コスト	包装容器のリサイクル	0	104	19	103	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	13	47	0	47	P.8
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	209	0	217	P.11,12
社会活動コスト	地域における環境保全活動	1	15	0	21	P.26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	3	0	3	—
合計		114	968	88	964	

環境保全効果

効果の内容および効果を表す指標	環境負荷量		2008年度比環境負荷増減量
	2008年度	2009年度	
SOx排出量(t)	11.9	12.8	0.9
NOx排出量(t)	29.2	25.7	-3.5
水使用量(千m ³)	1,443	1,385	-58
COD量(t)	16.5	18.5	2.0
SS量(t)	5.8	7.1	1.3
CO ₂ 排出量(t)	51,603	52,522	919
有価物の売却量(t)	1,991	2,548	557
廃棄物排出量(t)	4,968	5,668	700
廃棄物埋立量(t)	594	373	-221

環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：百万円)

効果の内容	金額	
	2008年度	2009年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	47.9	32.3
省エネルギーによるエネルギー費の削減	88.4	29.3
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	31.3	-3.4
合計	167.6	58.3

集計について

- (1) 集計期間：2009年4月1日から2010年3月31日まで
- (2) 集計範囲：荒川化学工業株式会社、ペルノックス株式会社、高圧化学工業株式会社
- (3) 集計参考：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」および(社)日本化学工業協会日本レスポンシブル・ケア協議会「化学企業のための環境会計ガイドライン」を参考にしました。
- (4) 集計の考え方
 - ・減価償却費は財務会計上の金額。
 - ・投資金額は集計期間の検収ベース金額。
 - ・環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に係る割合を適切に按分して算出。
 - ・研究開発コストは、個々の研究テーマ毎に環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出。
 - ・効果は物量および金額で集計しました。「みなし効果」「偶発的効果」は算定していません。